

# CSK レポート

005 SUMMER 2010

2010年3月期 決算報告 2009年4月1日～2010年3月31日

株主の皆様へ

「継続的な成長・発展を目指して」



CSK HOLDINGS CORPORATION

# CSK レポート

005 SUMMER 2010

## CSKグループビジョン

常に時代の要請を敏感にとらえ、お客様が必要とされる最適なサービスを提供し続けることで、継続的な成長・発展を遂げる企業グループを目指します。

私たちは今、

### 「CSKブランドの再構築」

に向けて3つの回復に取り組んでいます。

信頼  
の回復

収益力  
の回復

成長力  
の回復

## CSK REPORT 005 CONTENTS

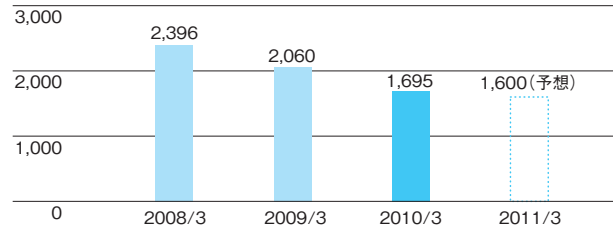
決算報告	01
株主の皆様へ	03
財政状態について	07
事業分野別の状況	09
導入事例	10
発見 CSKグループ	11
会社・株式関連情報	13

#### 免責事項

CSKレポートは、CSKグループの業績および事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、CSKホールディングスおよびグループ会社の株式購入や売却を勧誘するものではありません。本レポートの内容には、将来の業績に関する意見や予測などの情報を掲載することがありますが、これらの情報は、現時点の当社の判断に基づいて作成しています。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。本レポート利用の結果生じたいかなる損害についても当社は一切責任を負いません。また、本レポートの無断での複製、転記などを行わないようお願いいたします。

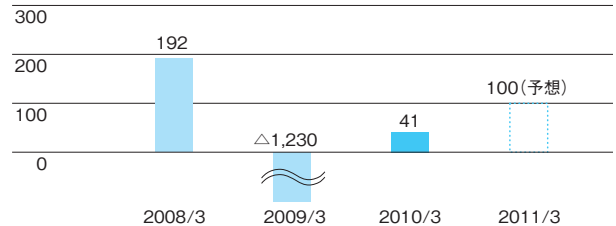
#### 売上高

(単位：億円)



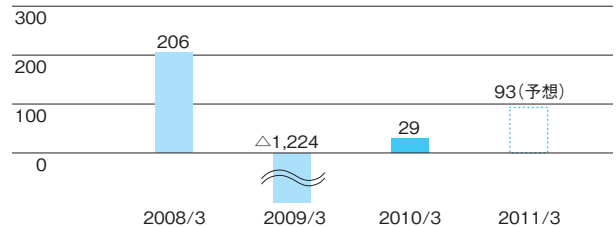
#### 営業利益 (損失)

(単位：億円)



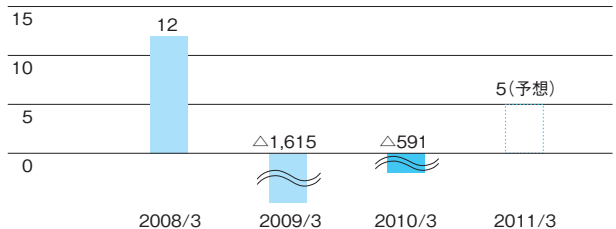
#### 経常利益 (損失)

(単位：億円)



#### 当期純利益 (損失)

(単位：億円)



## 当期のポイント

### 2010年3月期業績

売上高は、プリペイドカード事業および証券事業において前期比増収となる一方で、情報サービス事業において、IT投資抑制を背景に、電気・精密および輸送用機器関連などの製造業向けを中心に減少したこと、また前期において銀行統合などの大型案件精算やクレジットファイナンス向けの機器販売があったことなどにより減収となりました。

営業利益は、情報サービス事業における減収の影響があったものの、徹底したコスト構造の見直しにより黒字へと転換しています。

### 2011年3月期予想

売上高は、情報サービス事業において、金融業向けにおける制度対応や業界再編に伴うシステム需要が増加する見通しですが、コスモ証券などの売却により減収となる見通しです。

営業利益は、前期に実施したコスト構造改革の効果や、不採算事業からの撤退などにより、大幅な増益を目指します。

なお、2010年4月15日に公表していますコスモ証券の株式譲渡に伴う特別損失約88億円の発生を考慮し、当期純利益は5億円となる見通しです。

### 今後の取り組み

グループ事業の3本柱と位置づける、「BPO」「ITマネジメント」「システム開発」各事業の強化・連携と、3事業分野をベースとした新たな成長分野の開拓を推進し、安定的に収益を生み出す体質への転換を目指します。



代表取締役会長  
東 明浩



代表取締役社長  
中西 毅

## ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援ご愛顧を賜り、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

当社、2010年3月期（2009年4月1日から2010年3月31日まで）の決算を終了いたしましたので、ここに営業の概況と主要項目につきましてご報告申し上げます。

今後とも株主の皆様の一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 継続的な成長・発展を目指して

### 2010年3月期の取り組み

当社グループは、2009年10月以降、CSKブランドの再構築に向けて、「信頼の回復」「収益力の回復」「成長力の回復」を掲げ、情報サービス事業への集中や財務基盤の安定化、コスト構造の改革など、さまざまな再生施策を着実に実行してまいりました。これらの取り組みの結果、2010年3月期の営業利益は、目標であった黒字化を達成し、さらに公表値を上回ることができました。

2010年3月期下期より、情報サービス事業への集中を実現すべく、金融サービス事業、証券事業、および不採算事業からの撤退を図りました。また、財務体質の改善に向け、有利子負債の圧縮は計画どおりに進捗しています。コスト構造の改革については、早期退職優遇制度やオフィス・拠点の統廃合を進めるとも

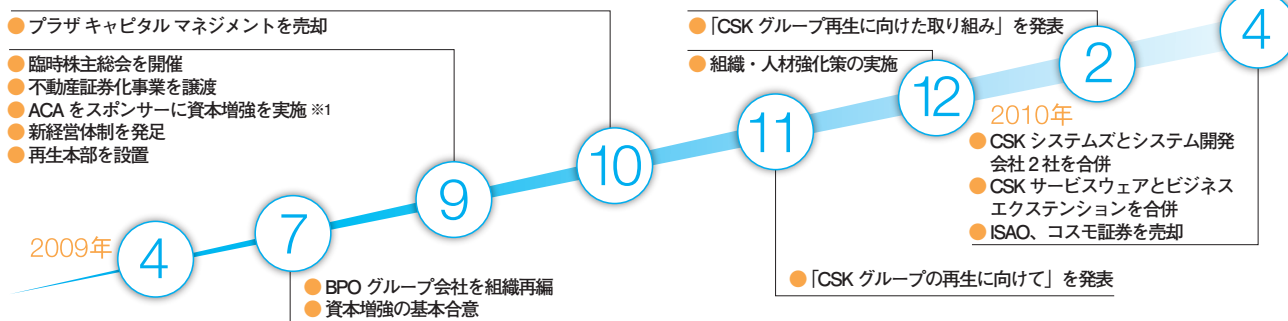


代表取締役社長  
中西 毅

に、社内情報システムの開発凍結を行ったことで、安定的な収益を生み出す筋肉質な体質に転換しつつあります。2009年3月期に1,090億円あった固定費は、2010年3月期には912億円にまで削減することができました。今後もコスト構造改革を継続し、2011年3月期の固定費は、2009年3月期と比べて215億円削減した875億円となる見込みです。

### 再生に向けた1年間の取り組み

- プラザキャピタル マネジメントを売却
- 臨時株主総会を開催
- 不動産証券化事業を譲渡
- ACA をスポンサーに資本増強を実施 ※1
- 新経営体制を発足
- 再生本部を設置

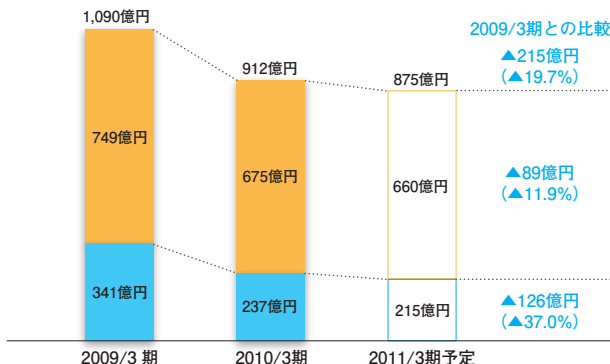


## ○ コスト構造改革の成果

2011/3期の固定費は2009/3期と比較し、215億円削減

※ 情報サービス事業 + プリペイドカード事業 + CSKホールディングスが対象

■ 人件費 ■ 物件費



一方、情報サービス事業の新たな成長分野を開拓すべく、CSKシステムズ、CSKシステムズ西日本、CSKシステムズ中部の3社を合併し、システム開発事業の推進体制を整備しました。そして、グループ全体の事業革新を目的として、「営業」「分室※2」「サービス」「技術」の4つのテーマに対し、グループ横断の検討部会を立上げ、活動を進めております。また、CSKサービスウェア、CSK-ITマネジメント、CSKシステムズに新規事業の立上げ支援を担う、「サービス・イノベーション」推進組織を設置しました。

## ● 2011年3月期計画

2011年3月期の計画は、売上高1,600億円、営業利益100億円、経常利益93億円、当期純利益5億円

です。2010年3月期の売上高1,695億円から、2010年4月に売却したコスモ証券やその他撤退・売却した会社の売上高を除くと1,494億円となり、実質106億円の増収を見込んでおります。2010年3月期の受注実績は、全体として非常に厳しい状況ではあったものの、第4四半期以降、CSKサービスウェア、CSK-ITマネジメント、CSKシステムズにおいて回復傾向が見られます。売上計画の達成に向けて、着実に案件の受注活動を進めてまいります。

営業利益につきましては、事業構造改革や徹底したコスト構造改革の効果により、売上高が2010年3月期と同水準であるならば、82億円を確保できる見込みです。計画を達成するにはさらなる積み上げが必要であるものの、前期比で大幅に増益となる見通しです。なお、当期純利益につきましては、2010年4月に公表しておりますコスモ証券の株式譲渡に伴う特別損失約88億円の発生を考慮した計画といたしました。

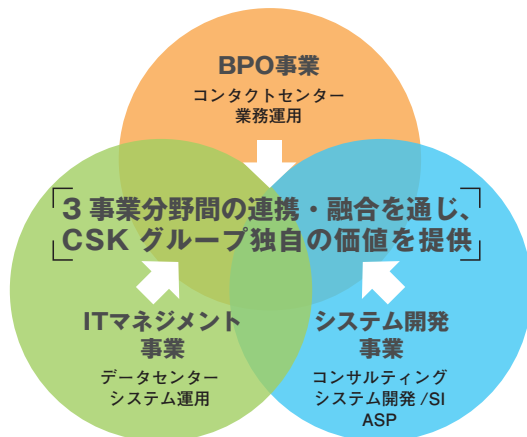
事業方針としては、サービス・インテグレーションにおいて「BPO」「ITマネジメント」「システム開発」のそれぞれの事業の強化と連携を推進します。BPO事業は成長分野と見込まれることから、資本や人的リソースを重点的に配置します。ITマネジメント事業は、安定収益であるアウトソーシング案件を確実に取り込むこと、システム開発事業は、特定業界・業務向けのSaaS※3展開や、金融業界で見込まれる制度変更や業界再編への対応を行ってまいります。また、生損保を中心とした金融や流通、製造業界における当社の既存

のお客様に対し、これら3つの事業におけるさまざまなサービスのクロスセルを推進し、収益の安定基盤を構築していきます。

サービス・イノベーションとしては、データを単なる情報として集めるに留まらず、付加価値を持たせて提供できるような、新たな事業の創造に継続的に挑戦していきます。そのためにも、グループ内での環境、仕組みの整備が必要であると同時に、同業および異業種との協業や提携を考えていきます。

また、当社グループの競争力のさらなる強化を目的に、3つの事業のより一層の連携が必要であるとの認識のもと、2010年10月1日を目処として、それぞれの事業の一体化を実現するグループ体制に移行することを予定しています。具体的には、当社と当社の完全子会社であるCSKサービスウェア、CSK-ITマネジメントおよびCSKシステムズの4社の合併による新たな

## CSKグループの強みと事業強化の方向性



経営体制・事業推進体制への移行の検討を開始します。

## 事業強化の方向性

我々を取り巻く事業環境は大きく変化しています。国内市場の成熟化や「所有」から「利用」へのニーズの変化などに対応すべく、我々としても一層の独自性・独創性を持ちつつ、かつ価格競争力をさらに強化していかなければなりません。それにはまず、「BPO」「ITマネジメント」「システム開発」を融合し、お客様の事業の最前線であるフロント部分から、その事業を支えるシステムや業務といったバック部分までを一貫して提供できるサービスを提供していきたいと考えています。つまり我々は、お客様（クライアント）だけを見てサービスを提供する「B to B to C」的な考え方ではなく、お客様（クライアント）とともに、お客様（クライアント）のお客様（カスタマー）までを意識した「B and B to C」的な考え方が必要だと考えています。

事例を2つ紹介します。株式会社レナウン様向けにオンラインショッピングサイトを構築し運営しています。これは、ECサイト向けASPサービス「e-Vans」と物流システム、そしてバックの業務を担うECフルフィルメントサービス、さらにお客様（カスタマー）の視点に立ったWEBソリューションを融合させた、株式会社レナウン様のEC業務を総合的に支えるEC支援サービスです。もう一つは朝日放送株式会社様向けに通販業務支援サービスを提供しました。これは、EC

サイト、販売管理システム、コールセンター、そして会員管理システムなどを融合させたサービスです。これらのサービス提供事例はいずれもフロント部分からバック部分までを一貫して支援するものです。

また、クラウドコンピューティング※4についても積極的に取り組みます。2010年5月12日から14日までの3日間、クラウドコンピューティングEXPOにCSKシステムズ、CSK-ITマネジメント、CSK Winテクノロジー、CSKプレッシュェンド、JIEC、CSIソリューションズの6社共同で出展しました。この場において、CSKグループの新しいクラウド基盤とアプリケーション、そしてデジタルサイネージ（電子看板）を含めた新たな研究について紹介するとともに、我々が提供する「BPO」「ITマネジメント」「システム開発」と、パブリッククラウドを組み合わせる活用することの有効性を提言いたしました。

## ● 財務体質の改善

2009年9月時点でCSKホールディングス単体の有利子負債残高は1,068億円でした。2010年2月に50億円を返済し、2010年3月末において1,018億円の残高となっております。2011年3月期の返済計画は150億円ですが、2010年4月に100億円を返済済みであり、今期の残りの返済は50億円となります。現時点では着実に返済計画を遂行しており、今後も資産売却や事業収益によって順調に返済していく予定です。

## ● 中期計数目標

中期目標として2014年3月期の売上高2,000億円、営業利益155億円を目指します。売上構成としては、BPO事業とITマネジメント事業の比率を今以上に高めたいと考えています。

この目標を達成するためにも、3つの事業それぞれにおいて、No.1になれるようなサービスを創造していかねばなりません。また、ニッチなマーケットであっても、成長性が高い分野については経営資源を集中して投入していきます。一方で、我々を取り巻く事業環境は引き続き厳しい状況であり、収益力を高めるような仕組みや、既存のお客様との信頼関係をより一層構築していく必要があります。これらを着実に実行するとともに、お客様に必要とされる最適なサービスを提供し続け、継続的な成長・発展を遂げる企業グループを目指していきます。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※1 ACA株式会社の100%子会社である合同会社ACAインベストメンツを引受先とする優先株式による約160億円の増資を実施し、併せて同社に対し新株予約権を発行。

※2 お客様先でサービスを提供する拠点。

※3 ソフトウェアの機能のうち、ユーザーが必要とするものだけをネットワークサービスとして提供するソフトウェアの配布形態。利用者は、ソフトウェアを購入せず使用分に応じて料金を支払う。

※4 コンピュータのソフトウェアやハードウェアなどのIT資源を所有せず、インターネットを通じて利用する形態。

## 資産、負債および純資産の状況

流動資産は、不動産証券化事業撤退に伴い、金融サービス運用資産が1,019億円減少したことなどにより、756億円減少しました。

固定資産は、土地の売却や子会社の連結除外などにより有形固定資産が減少したこと、また売却による投資有価証券の減少により、205億円減少しました。

負債につきましては、当社における短期借入金をデット・エクイティ・スワップ（債務の株式化）により資本化したことや、不動産証券化事業撤退に伴い金融サービス負債が減少したことなどにより、負債合計で867億円減少しました。

純資産は、デット・エクイティ・スワップ300億円、



取締役 常務執行役員  
熊崎 龍安

およびACAインベストメンツを引受先とする第三者割当増資160億円により資本金および資本剰余金がそれぞれ230億円増加するも、当期純損失による利益剰余金が減少したことなどにより94億円減少しました。

### ● 有利子負債の2010年3月期末残高と返済計画

有利子負債の返済計画に関しては下記のとおりです。

- 2010年3月期：2010年2月に50億円を返済
- 2011年3月期：返済計画150億円のうち、2010年4月に100億円を返済済み
- 今後、資産売却、事業収益によって有利子負債を返済

(単位：億円)

2009/9残高	2010/3残高		返済計画（返済金額）			
			2011/3期	2012/3期	2013/3期	2014/3期
500	450	借入金	150	100	100	100
218	218	ユーロCB	—	218	—	—
350	350	国内CB	—	—	—	350
		返済合計	<b>150</b>	<b>318</b>	<b>100</b>	<b>450</b>
1,068	1,018	有利子負債残高	868	550	450	—

※ CSKホールディングス単体の有利子負債額



## ○ 連結貸借対照表

(単位：億円)

科目	2009/3	2010/3
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	2,685	1,929
現金及び預金	363	452
受取手形及び売掛金	276	233
金融サービス運用資産	1,019	—
証券関連資産	541	613
その他	484	630
<b>固定資産</b>	953	747
有形固定資産	400	264
無形固定資産	66	54
投資その他の資産	486	428
<b>資産合計</b>	3,639	2,677
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	2,565	1,506
有利子負債(短期)	784	109
カード預り金	507	531
金融サービス負債	410	—
証券関連負債	475	561
その他	388	304
<b>固定負債</b>	821	1,013
有利子負債(長期)	767	968
その他	53	44
<b>負債合計</b>	3,386	2,519
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	236	104
評価・換算差額等	△ 34	2
新株予約権	—	4
少数株主持分	50	46
<b>純資産合計</b>	252	158
<b>負債純資産合計</b>	3,639	2,677

※ 固定負債その他には、証券事業に係る特別法上の準備金を含んでいます。

## ○ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

科目	2009/3	2010/3
<b>営業活動による キャッシュ・フロー</b>	△ 57	55
<b>投資活動による キャッシュ・フロー</b>	△ 123	65
<b>財務活動による キャッシュ・フロー</b>	△ 66	△ 19
<b>現金及び現金同等物に 係る換算差額</b>	△ 2	△ 5
<b>現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)</b>	△ 250	95
<b>現金及び現金同等物の 期首残高</b>	592	338
<b>連結除外に伴う現金及び 現金同等物の減少額</b>	△ 2	—
<b>現金及び現金同等物の 期末残高</b>	338	433

より詳しい決算情報は当社IRサイトにてご覧いただけます。

<http://www.csk.com/ir/index.html>

The image shows two screenshots of the CSK Investor Relations website. The left screenshot shows the main navigation menu with a callout box containing the text 'ココをクリック' (Click here) and an arrow pointing to a button. The right screenshot shows the '決算発表' (Financial Results Announcement) page, which includes details about the fiscal year 2010/3, such as the announcement date (March 26, 2010) and the location (Tokyo). Below the screenshots is the URL <http://www.csk.com/>.

事業分野別の状況は下記のとおりとなります。なお、当期中に不動産証券化事業からの撤退が完了したことに伴い、金融サービス事業を「その他の事業」として表示しております。

## 情報サービス事業

### ● テクノロジーサービス

売上高は、金融業向けにおいて想定していた案件が遅延したことや、製造業、特に電気・精密および輸送用機器向けシステム開発が減少したことにより減収となりました。営業利益は、減収幅は大きいものの、積極的にコスト構造改革を実施し、営業利益率は改善しています。

### ● ビジネスサービス

市況悪化やメーカーのコスト削減・製品開発投資の抑制などの影響を受け、テクニカルサポートや営業サポート、製品検証を中心に減収となりました。営業利益は、センター統合などによるリソース最適化や業務効率化、不採算案件の撤退などにより黒字化しています。

## プリペイドカード事業

売上高は、店頭およびギフトカードによるカード発行量が前年よりも若干減少したものの、機器販売が貢献したことにより増収となりました。営業利益は、機器販売に関する粗利益の増加が寄与し、増益となりました。

## 証券事業

売上高は、国内景気への回復期待などを背景とした日経平均株価の緩やかな上昇などにより、トレーディングに係る収益が増加し、増収となりました。営業利益は、増収に加え、販売管理費を前期比で大幅に削減し、黒字化しています。

## その他の事業（金融サービス）

売上高は、主に有価証券の売却益が減少し、減収となりました。営業利益は、有価証券の評価損などにより営業損失となっています。

## ○ 当期の事業分野別の状況

(単位：億円)

区分	売上高	前期比	営業利益	前期比
テクノロジーサービス	1,099	△266 (△19.5%)	104	△4 (△4.4%)
ビジネスサービス	410	△131 (△24.2%)	9	30 ( — )
情報サービス事業 計	1,510	△397 (△20.8%)	113	25 (28.9%)
プリペイドカード事業	31	4 ( 16.4%)	2	0 (26.0%)
証券事業	176	20 ( 12.9%)	1	80 ( — )
その他の事業（金融サービス）	10	△24 (△69.1%)	△18	1,137 ( — )

※上記の表には消去または全社は含まれておりません。

当社のサービスを導入いただいたお客様の事例を紹介します。

**社名** 前田建設工業株式会社様

**導入効果** 基幹システムのインフラ刷新を実施し、情報インフラ関連コストを従来月額比で20%削減

**提供内容** プライベートクラウド環境を整えた、  
従量課金型アウトソーシングサービス「USiZE」を提供。

**選定理由** 長年運用に携わった実績に加え、サービスに対する「コスト」「信頼性」「パフォーマンス」「利便性」をトータルに評価いただきました。

※ USiZE | データセンターに設置したコンピュータ・リソース、ネットワーク・リソースと各リソースに必要となる運用をセットにして、毎月実際のリソースの利用料に応じて、従量で課金するサービス

**社名** 朝日放送株式会社様

**導入効果** 「通販業務支援サービス」導入により、売上アップとコスト削減が実現

**提供内容** テレビショッピングサイトとECサイト、  
販売管理システムのデータをリアルタイムに連携。

**選定理由** 消費者からの全データをリアルタイムに連動させる仕組みと、放送、社内関連システムに長年深く関わってきた高い信頼感・柔軟な対応を評価いただきました。

※ 通販業務支援サービス | ECサイト、コンタクトセンター受注対応システム、販売管理システム、会員管理の4システムを連携し、業務効率化とお客様満足度の向上に貢献

あなたの  
身近な生活の中に

# 発見 CSKグループ

## 01 店舗開発業務と ITシステム

皆さんもこれまでに一度は、多店舗展開しているレストランやカフェ、小売店などを利用されたことはありませんか？ いつも何となくお店を利用していますが、お店の出店から退店までどのような業務が必要となるかあまり深く考えませんよね。

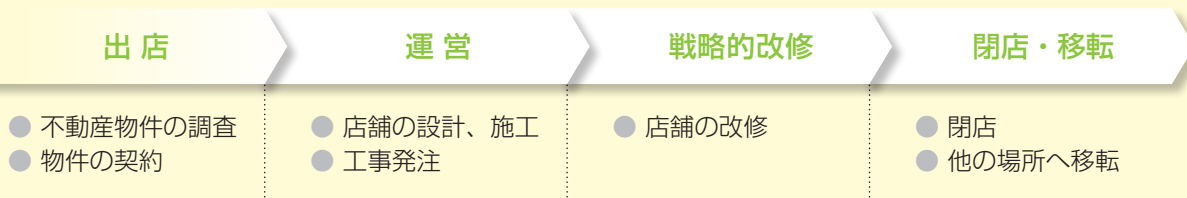
今回はこの疑問をCSKシステムズ流通システム事業部・流通システム営業部のメンバーに聞きながら、店舗開発業務とITシステムとの関わりを見ていきたいと思います。

### Q 多店舗展開しているお店が苦勞することは？

A その質問にお答えする前に店舗開発業務に関して、簡単に説明します。通常お店は出店から退店まで下図のようなライフサイクル管理を行う必要があります。店舗開発業務は、飲食店や小売店などの店舗出店での不動産物件の調査や、開店までの工程管理、ブランド戦略に基づく改装工事などの企画・実施・管理を行う業務です。多店舗展開されているお客様は、特にこの業務領域を課題と感じられているケースが多いですね。

具体的には、「資産管理の負担を軽減した上で、出店スピードもあげたい」「退店判断をしたい」「店舗リモデルをスムーズに行いたい」「たくさんあるフランチャイズ店舗との契約管理、フランチャイズサポートを効率的に行いたい」といったニーズをお持ちです。

### ● 店舗におけるライフサイクルと店舗開発業務



身近な生活に視点を置いて、CSKグループの活動を紹介する本コーナー。今回は、皆さんも一度は利用されたことがあるはずの小売業・外食産業の出店とその裏側で活躍するITシステムのお話です。

## Q 店舗開発業務とITシステムはどう関わっているの？

A CSKシステムズでは店舗開発業務に必要な、「工事コスト・発注・検収管理、施工管理、業者管理」「出退店・賃貸借・付帯・更新契約その他店舗にまつわる契約全般管理」「店舗改修・修繕等メンテナンス管理」などの業務\*を一気通貫で管理できるソリューションシステムを提供しています。

\*店舗開発業務に必要な一部業務を紹介

## Q CSKシステムズが評価される部分はどこ？

A CSKシステムズがお客様から選ばれている理由は店舗開発業務のITソリューションを持つ数少ないSIベンダーで10年来の多数の実績とノウハウを持っており、業務の最善策を提案可能であるからです。主な事例は下図のとおりです。

### ● 主な事例

導入事例 ① 大手外食チェーン 店舗数：3,500店舗

導入事例 ② 大手コーヒーチェーン 店舗数：750店舗

導入事例 ③ 大手小売チェーン 店舗数：170店舗

## 02 CSKグループの目指す姿

日頃なげなく利用されているお店にもひょっとするとCSKシステムズのシステムが関わっているかもしれませんね。CSKグループではお客様に密着してITサービスを提供する中で、お客様に内在するニーズや経営課題をいち早く把握することができます。今後もCSKグループでは常にお客様の業務視点に立ち、お客様の必要とされる最適なサービスを創造してまいります。



CSKシステムズ流通システム事業部・流通システム営業部のメンバー

○ 会社概要 (2010年3月31日現在)

商号 株式会社CSKホールディングス  
 設立 1968年10月7日(登記上1951年2月7日)  
 資本金 962億円  
 株式市場 東京証券取引所市場第一部上場  
 (証券コード: 9737)  
 本社所在地 〒107-0062  
 東京都港区南青山二丁目26番1号  
 TEL: 03-6438-3901 (代)

○ 役員 (2010年3月31日現在)

取締役会長	※1 東 明浩	常務執行役員	熊崎 龍安
取締役社長	※1 中西 毅	執行役員	石村 俊一
取締役	熊崎 龍安	執行役員	鈴木 正彦
取締役	堀江 聡寧	執行役員	谷原 徹
取締役	※2 山崎 弘之	執行役員	田財 英喜
取締役	※2 近藤 勝重	執行役員	清水 康司
常勤監査役	播磨 昭彦	執行役員	遠藤 正利
監査役	※3 石川 岩雄		
監査役	※3 下二井政信		

※1 代表取締役  
 ※2 社外取締役  
 ※3 社外監査役

○ グループ会社一覧 (2010年5月1日現在)

株式会社 CSKサービスウェア  
 株式会社 バリサーブ  
 株式会社 CSKプレッシェンド  
 CSK SYSTEMS(DALIAN) Co., LTD.  
 株式会社 CSK-ITマネジメント  
 株式会社 CSIソリューションズ  
 株式会社 CSKシステムマネジメント  
 株式会社 CSKシステムズ

株式会社 JIEC  
 株式会社 CSK Winテクノロジー  
 株式会社 福岡CSK  
 株式会社 北海道CSK  
 株式会社 CSKニアショアシステムズ  
 CSK SYSTEMS(SHANGHAI) CO., LTD.  
 株式会社 CSK証券サービス  
 スーパーソフトウェア 株式会社

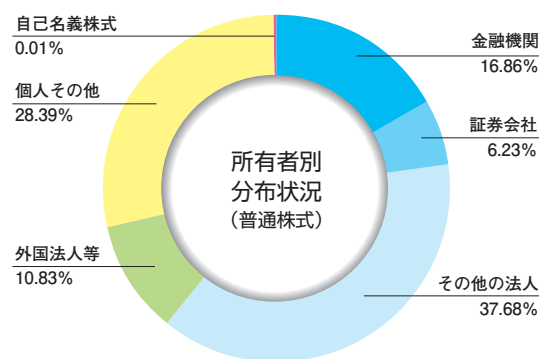
株式会社 クオカード  
 株式会社 CSKアドミニストレーションサービス  
 CSKベンチャーキャピタル 株式会社  
 プラザアセットマネジメント 株式会社  
 株式会社 CSKアグリコール  
 東京グリーンシステムズ 株式会社

○ 株式の状況 (2010年3月31日現在)

区分	発行可能株式総数	発行済株式総数	株主数
普通株式	298,000,000株	125,747,714株	58,397名
A種優先株式	15,000株	15,000株	4名
B種優先株式	15,000株	15,000株	4名
E種優先株式	5,000株	5,000株	1名
F種優先株式	5,000株	5,000株	1名

(注) C種およびD種優先株式は、2010年3月17日に全て普通株式を対価とする取得請求権の行使がなされ、同日付で、全株消却しています。

○ 所有者別分布状況 (普通株式)



## ○ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
単元株数	100株
定時株主総会の基準日	毎年3月31日
期末配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物の発送先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-176-417
インターネットホームページ	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 電子公告アドレス： <a href="http://www.csk.com/ir/information/epn/index.html">http://www.csk.com/ir/information/epn/index.html</a>

### 証券会社に口座を開設されている株主様へ

※ 住所変更などのお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。

### 特別口座について

- ※ 株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といえます）を開設しております。
- ※ 特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。
- ※ 『特別口座』に記録されました株式につきましては、直接市場で売却することができません。株式を売却するためには、証券会社に口座を開設し、『特別口座』から『証券会社の口座』へ株式を振り替えていただく必要があります。特別口座の株主様におかれましては、証券会社の口座へのお早目の振り替え手続きをお勧めいたします。

## ○ ホームページのご紹介

当社はホームページを重要な情報発信源のひとつとして認識しており、株主・投資家情報やプレスリリースなどを随時掲載しております。ぜひ、ご覧ください。



<http://www.csk.com/>

### 配当について

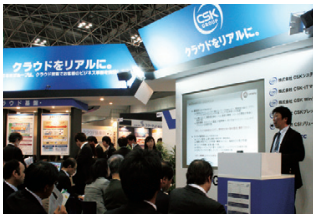
当社は、当期の連結業績において多額の損失を計上するに至り、中間配当・期末配当ともに無配とさせていただきます。何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、一刻も早く安定収益を生み出す体質への転換に努めてまいります。

## 「第1回クラウドコンピューティングEXPO」出展

2010年5月12日（水）～14日（金）、東京ビッグサイトにおいて「第1回クラウドコンピューティングEXPO」が開催されました。

CSKグループからは、「クラウドをリアルに。」をテーマに、ハイブリッドクラウド環境構築サービスを中心としたクラウド技術を活用し、お客様のビジネスの革新につなげる「リアル」なサービスをご紹介します出展と、「クラウドを取り巻く最新動向と、ハイブリッドクラウドで拓く新しい世界」と題した特別講演を行いました。

### ● ブース展示



#### CSKグループ商材出展各社

- (株)CSKシステムズ
- (株)CSK-ITマネジメント
- (株)CSK Winテクノロジー
- (株)CSKプレッシュエンド
- (株)JIEC
- (株)CSIソリューションズ

「クラウドをリアルに。」をテーマに、クラウド時代に対応した「ハイブリッドクラウド」でCSKグループが一体となりお客様の課題を解決していくサービスを、パネル展示とミニセッションで紹介しました。

### ● 特別講演：「クラウドを取り巻く最新動向と、ハイブリッドクラウドで拓く新しい世界」

本講演では、クラウドを取り巻く世の中の動向や最新の社会環境を説明し、企業ITシステムのクラウド活用の動向にあわせ日本のビジネスシーンの最適解となりうる「ハイブリッドクラウド」について解説



株式会社CSKシステムズ  
技術開発部 CSKフェロー  
黒川 利明

しました。1,000席の講演会場は満席となり、さらに立ち見のお客様が200名近く出るほどの大盛況となりました。